

日本骨髄腫学会会員各位

拝啓

朝晩に秋の気配を感じる昨今ですが、ますます、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、来年5月17日（土）～18日（日）に静岡県掛川市で第39回日本骨髄腫学会学術集会が開催されます。今回のテーマは近年の骨髄腫治療の進歩を受けて、「骨髄腫治療の the State of the Art を考える」としました。多くの新薬と大量化学療法の普及で、骨髄腫の治療成績は改善しましたが、我が国における治療成績改善の実態は明らかではありません。最近の我が国の骨髄腫治療の内容を解析することは、新薬の効果の検証にとどまらず、現在の骨髄腫治療の課題が明確になると考えます。

今回の調査研究は、徳島大学の尾崎修治先生と群馬大学の半田寛先生に計画書の作成をお願いし、研究計画は日本骨髄腫学会の臨床研究委員会で審議され承認されました。また、症例の調査ファイルは、欧米やアジアで行われている調査ファイルとほぼ同じもので、日本骨髄腫学会としては、今後の症例の調査の基本ファイルにしたいと考えています。

今回の調査研究の骨子は以下の通りです。

**調査期間：2001年1月1日～2012年12月31日の間に貴施設を受診**

**対象症例：症候性多発性骨髄腫（原発性形質細胞白血病を含む）**

**観察期間：診断日から調査票記入の時点まで**

**調査方法：日本骨髄腫学会で定めた調査用ファイルに入力**

**調査期間：2013年9月2日～2013年12月2日**

**回収方法：メールまたはファイルの郵送**

**メールアドレス：jsm-info@jsm.gr.jp**

**ファイルの送付先：〒474-8511 愛知県大府市森岡町源吾 35**

**独立行政法人 国立長寿医療センター 血液内科 内 柴田 英子**

末筆ですが、先生のご健勝とご研究の発展を祈念申し上げます。

敬具

平成25年8月30日

第39回日本骨髄腫学会学術集会会長

名倉 英一

追伸

研究計画書を同封しました。調査ファイルは事務局ホームページからダウンロードをお願いいたします。また、メールアドレスの連絡のある先生にはメールで連絡しています。